

特集2 プロジェクトA2「言語科学と英語教育研究会」
ワークショップ・公開シンポジウム

英語教育とコーパス

開催日時：2005年12月3日（土曜日）13：00～18：00

会場：第1部 ワークショップ 恒心館 724教室

第2部 シンポジウム 恒心館 727教室

第1部 ワークショップ 「実際の授業で使えるコーパス」

講師：梅 咲 敦 子（立命館大学政策科学部教授）

第2部 シンポジウム 「英語教育におけるコーパスの果たす役割（2）」

はじめに

コーディネーター：中 村 純 作（立命館大学大学院言語教育研究科教授）

「コーパス言語学から見た語彙指導のあり方」

講師：赤 野 一 郎（京都外国語大学外国語学部教授）

「コーパスに基づいたシラバスデザインとその実践」

講師：中 條 清 美（日本大学生産工学部助教授）

「日本人大学生による『鉛直軸をあらわす英語前置詞』と『意味のネットワーク』
の拡張」

講師：金 子 朝 子（昭和女子大学人間文化学部教授）

「教科書コーパスから何が見えるか」

講師：中 村 純 作（立命館大学大学院言語教育研究科教授）

講師：山 添 孝 夫（立命館大学大学院言語教育情報研究科大学院生
/ 滋賀県立八幡商業高等学校教諭）

特集 2 企画趣旨

企 画 趣 旨

「言語科学と英語教育」研究会は先端的な言語学諸分野の研究と言語教育方法の実践的な研究の融合を目的としていますが、とりわけ、コンピュータを活用する言語学の成果・研究手法と、言語教育の方法論とを組み合わせることにより、今日の言語教育の課題に応えることを目指しています。昨年度は英語教育現場でのコーパス利用を目的としたワークショップと、「英語教育におけるコーパスの果たす役割」をテーマに「英語教育とコーパス」「教材とコーパス」「辞書とコーパス」「教育の現場におけるコーパスの利用」に焦点を当て、理論的あるいは概念的な面を中心にしたシンポジウムを開催しました。

今年度も、昨年同様、ワークショップとシンポジウム「英語教育におけるコーパスの果たす役割(2)」を開催いたします。実際の教育の現場ですぐに応用できるコーパス利用法を指導するワークショップは昨年も好評を得ましたが、今回も同様の趣旨で、内容を改め行ないます。「英語教育におけるコーパスの果たす役割(2)」では、「コーパスに基づいた語彙指導」、「コーパスに基づいたシラバスデザインとその実践」、「学習者コーパスから得られる情報に基づいた中間言語の研究」、「教科書コーパスから得られる情報」などに焦点をあて、より具体的な側面に重点をおいたシンポジウムとして企画しました。

本企画においてはコーパス言語学の立場から英語教育に対する提言を行うことを中心としていますが、教育現場からのフィードバックも得つつ、より実践的なコーパスの利用についての展望を得ることと、コーパスに対する理解を深めてもらうことを目的としています。

